

最近歐米教育に 於ける諸問題

日本大學第四中學校 文學士

山口幸之助

共に大いに擴大されてゐる
基礎學校終了後國民學校に
進むものもあれば又六年間
の中間學校に入學するもの
もある。又ドイツチエ・オ
ーバー・シユーレに入學す
る者もあるし、國民學校第
七學年よりギムナジアル、
或はレア・ギムナジアル・

國語研究研究講演

橫濱市教育會主催

圖書監修官 大岡保三先生

大岡保三先生

を見て、子供が綺麗な花だと
感激にうたれた時の花でなければ
ならぬ。ハナといふのは
單語は單語だが、實は一つの
文を背景とする單語、否寧ろ
一文を代表する單語であると
説くのであります。此れは巧
な説き方ではあります、餘
りに取扱方に頼つた行き方で
編纂としては無理な編纂法と

はれて居ました。此の何時
直譯的の讀本にも表はれて
て、極く平易な讀本が行はれ
た他方には「神は天地の元
にして人は萬物の靈なり」といふ風な難解の讀本が行はれ
ました。之は前述の商賈書等に對する漢文素譜派とすべ
きでせう。傍で今日も
つて考へて見ますと私は極
い外國語を苦んで習つたた
しが餘り役立たないで、
つて分らずに習つた漢學が實際には役に立つて居る
うにも思はれるのです。
點から申しますと、時代に
した役に立つ筈の教育より
時代離れたした無茶な教
時には必要ではなからう
時々考へるのであります。
傍で 話は前に戻ります。
在來の教科書は單語に據る
文字を教へるのが建前にか
て居りましてこれは國語教
の本旨からみて非常に不適
な行き方であると云ふことは
先程申述べた通りであります。
故に今度の教科書は單語を教
すことをやめ最初から不適
ながらも文で出す方針を取
たのであります。このことの
前は國語讀本編纂の時から
に其の要求があり、編纂者
之を希望してゐたのであり
ます。當時に於て既に單語を
めて文で出したかつたのであ
ります、けれども社會全般
機運がまだそこまで熟して
なかつたので、已むを得ず大
譯ばかりに單語を僅かに七
三頁に亘つて出したのであ
ります、これをそれ以前の讀
が多數單語を出してゐるの
較べて見れば編纂者の心情が
よくお分りになることゝ思
ます。又此の編纂者は最初
に「ハナ」と云ふ言葉を教
るにしても、單に植物の煙
のやうな花を教へるのでは
白くない春の長閑な光を浴
て爛漫と咲き誇つて居るや
うな花を教へるのではな
いです。それは今

斯くて、私共は今度の讀本は初めから文で出すことに決定したのであります。如何なる文で出すかと云ふことに就ては可かり苦勞を致したのであります。從來の讀本に於て最初に出した文の形式は「カラスガキマス、ズズメガキマス、ウシガキマス、ウシトウマガキマス、モノサシガアリマス、ハサミガアリマス」と云ふので、最初にキマス、アリマスと存在を示す動詞を教へたのであります。これは文法上から見れば極めて順序正しい、正確な言葉の教へ方ではあります。子供の興味と云ふ點に就て見ますと少し物足らないのであります。この「キマス、アリマス」を先に出すと云ふことはやはり前單語の提出と同様に讀本に於ける一つの定石となつて居るのであります。國語讀本の編者が子供の好きさうな牛や馬を材題に選んで「キマス、アリマス」を教へた事は以前の讀本に比べて非常な進歩で苦心の在る所はよく察せられます。併しながらこれを學問的に考へて見ますと「キマス、アリマス」と云ふ動詞の使用は實は甚だ難しいのであります。

例へば生きて居るものに就ては「カラスガキマス、イヌガキマス」の如く「キマス」とと言ひ、さうでないものの生命のないものは「ツクエガアリマス、カバンガアリマス」と云ふ風に「アリマス」を用ひる生物に就ては「キマス」であり、無生物に就ては「アリマス」であると言へば簡単であるが、さう一概に片着けられない場合もあります。机にしても一つの場合は机ガアリマスでいいでせうが、澤山列んで居る場合、机が澤山列んでアリマスとは言へないこれはやはり澤山列んでキマスでなければならぬ、又人の場合でも私がここにキマス。皆様がここにいらつしやいますでなければいけないが(つづく)

新史料かなら見たらたる

數多御座候古書に候へ
ば好敷存候故、一の室
へ私罷越申候ば、俵に
入天井に御座候へば、
近年之内不殘虫の巣に
成候て、跡形なく可罷
候古書共惜き事に候、
且は御寺に相殘候爲
め、且は菩提の爲にも
候間、箱を寄進可仕候、
其尅不殘一見仕、目錄
を調箱へ入可進候、其
内所望に存候書は、借
用仕御寺に而成共時寫
候様に仕度候由申候へ
ば、一の室被申候は其
段相心得候、衆僧中相
談可仕候、左候へば混
雜仕どち承など無之
は、次而にとち合候て
箱に入申様可仕候、部
數も多候故、左様の事
も當年中は難成候間、
相談相極、來春案内可
申由、一の室被申候、
何共及才覺不申候故、
金澤に而肝煎申人々へ
彌賴入、稱名寺僧衆へ
能々申入、何とぞ合點
被致候て、飛脚に而案
内頼入候由頽置、先私
は鎌倉へ罷出申候、御
座候、弓矢の道具無御
古書好敷奉存候へば、
右之通及才覺候、其外
金澤之寺々在家相尋候
へ共、經文之類許に御
座候、弓矢の道具無御
座候。器物も可然道其
無御座候、其内俗家之
用にも可罷成物共は覺

金

(六) 金澤文庫の活動

金言

關

立

自二酉起至三同夜已書

一 起請文條々事
秘少廿帖不可授
門弟一事

して、赤シャツと野田が道後湯の町の角屋で泊つたところを見つけてその翌朝、漱石先生は、四月十日に登山を出發せられて十三日に磐梯山を登頂する。月

立 櫻井高等女學校長の野村
四さんは、漱石先生が帝國
學の講師であつたころ大學
二つ生の先生で、先生のものと、

さんにその周旋を頼んだ
であるそこで、野村さんは
子氏のところへ行つてその

自西起至同夜已書了
心鑒抄の奥に、
干時嘉吉三年六月十二日於極樂寺報恩勸學院二萬寮寫之、急間定文字可誤多歟、於後日可改書物也、然抄者爲睿晤大德御草間、不可依筆之善惡、可爲當宗之重寶間、書寫之畢、願々可レ秘々々比丘々々
想似薦茲 鏡心通俗廿二無
別異弘願集の奥に、
建長六年甲 七月廿九日於遠田郡長崎郷來迎寺東面奉寫畢、後見人可レ唱南无阿彌陀佛十返也、記してある。如何佛書のあるものが、嚴秘に第二代長老劍阿の起みに第一事一言不レ文を挙げて見ると、取扱はれてゐたかといふが分る。特に聖教などについては、その嚴重さが一甚だしかつたもので、今は既に第二代長老劍阿の起みに第一事一言不レ文を挙げて見ると、
自下河原宮返給請
文事
所授賜尊法作法等事
一不漏一紙半紙可レ奉返御門跡事
一雖奉返正本若
奉返御門跡事
一雖一兩說以御流
口決不レ可レ授門弟
右五箇條趣、任教命事
之起請如斯、若雖織

立櫻井高等女學校長の野村傳四さんは、漱石先生が帝國大學の講師であつたころ大學生だつたので、先生のもとへ繁々出入りした。明治四十年頃のある日野村さんは漱石先生を訪問すると、書齋の方で、しきりに笑ひ聲がする、書齋へ通つて見ると「ボトトギス」發行所の高濱虚子氏（松山中學出身）が來てゐられて、漱石先生と二人して「坊つちやん」の原稿を朗讀して居られた。一同　　壹軒　　染治此もの儀是迄奉公稼致居候處御趣法御趣意を感服仕出願仕候に付右同斷之上被下候事けれども矢張私達にとつて最も興味を覺えさせるものは投票に依つて被表彰者を決定することについてである。投票の方法は既に知られてゐる如く竹筒を以て投票箱として中央に責任者の捺印ある細長い投票用紙の上部に被選舉者を記し、下部に投票者の記名をなして紙擦にし、竹筒の方に穿たれた穴から投入するのであるが、投票權は一戸一票で女にもその資格が與へられてゐる。即ち一百年以前既に先生は普選婦選の實行者であつたと云はれる所以である。そして實に法理的でなしに道徳的に高層者又は前に選ばれた者は被選權を遠慮することになつてゐるから、票の固定することがなく、又投票者に責任が負はされてあるから、無分別ないゝ加減な投票が出来ない。

かうして、一方に向上心をそゝり、一方に責任感念を強調するために、共存共榮、自力更生の念が次第に育まれ、助長されて行き、且つ又公平無私神意そのまゝの明るい政治に對する民衆の信念が愈々増して行くのである。

國際聯盟と滿洲問題

國際聯盟協會、主事

赤松裕之

主催 橫濱商業工會議所
横濱工業業協會
横濱商業振興團體聯盟

でございます。日本は今や國際聯盟を脱退する壯を堅めたのであります併し未だ其の手續きは執つて居りませぬけれども、もう既に氣持だけは脱退してしまつたやうなものであります脱退したも同じやうな今となつて國際聯盟のお話を致しますもの實はどうかと思ふのであります併しこのことをもう一度再考する齧つて考へて見ることも必要な場合もあるのであります日本が脱退しましても直ちに國際聯盟が解消されると云ふ譯でもありますね、聯盟は聯盟として存在して居るのでありますから必ずしも無意義ではなからふと思ふのであります。

和の維持のために聯盟が力を盡して居ることは表面に現れた大きな仕事として一般から認められて居ることであります。ですが第二の方の仕事は餘り表面に現れないでの、一般の人々に理解されないで居りますが、人に言はせると、此の第二の仕事がある爲に國際聯盟の眞の意義があるのであると稱して居ります例へば人道問題であるとか交通、財政、經濟、労働と云ふやうな問題のためにも力を以て居るのであります。而して聯盟の世界平和の維持のためにどう云ふ方法を講じて居るかと云ふことに就て簡単に申述べますと、先づ第一に軍備の制限と云ふことであります。而して日本もこの軍備の制限の規約に基いて、約束をして居ります、軍備の制限と言つても完全軍備を撤廃すると云ふのではなく、各國共自國の安全を脅かさない範圍に於てはありますて、これに就てはいふべくと論議されて居ります或る一部の平和論者の中には完全軍備を撤廃せよと云ふやうなことを言つて居りますし又或る一部には強硬に軍備の充實を圖れと云ふやうな論者

（續）

云ふことも、條約を無視するところになります。併してどうかと思はれます。併し今日の如きは、他國が充實した軍備を持つて居るのに、自分の國だけ軍備を撤廃する、と云ふことは非常に難しい問題であつて今日まだその解決は出来て居らないのであります。それからもう一つの方法として國と國との間に紛争が生じた場合、これを放任して置くとお互に争ひが嵩じて終は戦争になるから戦争にならぬために平和的の解決をしなければならないと云ふので、規約を作つてある。

その規約を最も平易にお話すれば國と國との間に紛争が生じた場合は戦争の手段を執る前に先づ聯盟に訴へてくれると云ふのであります。而して聯盟は紛争各國に對してその平和的解決のために努力するのであります。この規約の階段段として十一條から十五條までが規定してあるのであります

導した中心統合法論者は、その中心科目として何をとるべきかによつて幾多の流派を生じたのであつて、ヘルバート氏一派は道徳的的生活を中心として各教科目を統合法論者があつたが、児童の郷土に於ける生活を中心としてこれら児童の郷土生活より漸次擴張發展しゆく生活といふことを考へたのはヨハーン・バッテスト・ブライゼル氏である。同氏によれば直觀綜合概念の三段階を経て、生活は郷土より祖國へ、更にこれより世界へ擴張し、遂には神と人との關係へ迄擴張展開してゆくものであるとなし、第一極の目的は神と人との關係を明らかにするのが郷土教育であると考へた。勿論これらの方へは極めて幼稚ではあつたが此に郷土教育の萌芽があるのである。中心統合法による教授に於いては活き／＼した生活の上に打ち立てらねばならぬといふ、この場合郷土に立脚せばならないのである。郷土は本筋であるが、その中心科目として何をとるべきかによつて幾多の流派を生じたのであつて、ヘルバート氏一派は道徳的的生活を中心として各教科目を統合法論者があつたが、児童の郷土に於ける生活を中心としてこれら児童の郷土生活より漸次擴張發展しゆく生活といふことを考へたのはヨハーン・バッテスト・ブライゼル氏である。同氏によれば直觀綜合概念の三段階を経て、生活は郷土より祖國へ、更にこれより世界へ擴張し、遂には神と人との關係へ迄擴張展開してゆくものであるとなし、第一極の目的は神と人との關係を明らかにするのが郷土教育であると考へた。勿論これらの方へは極めて幼稚ではあつたが此に郷土教育の萌芽があるのである。中心統合法による教授に於いては活き／＼した生活の上に打ち立てらねばならぬといふ、この場合郷土に立脚せばならないのである。郷

思想界に一大變化が歐洲上に起つた、これ於ても思想上の變化が返へされて居る、これが他面歐米と日本との間通が發達した事に原因ゐるのである。スマーリー氏によれば近世學校は單に學校思想の變化、起したばかりでなく、ある社會思想改革の要源は單に學校思想の變化、起したばかりでなく、ある社會思想改革の要源であり、社會組織變革の根柢となしてのである。これ在治上に於て最も強く表れたのは彼の佛國大革命つた。佛國革命當時には自由、平等、同胞感者は相互に矛盾するこゝ一致するものである。へられたのであつたが、後の實證的社會現象のは三者の關係が必ずし致しないことを示したある。

由は各人の自我意識のと共に主張され切ら、

224 であり、前者は機的社會主義の實現される心理が主體を政治法律上に實現される心理の結合で、兒童中心の教育された。更に道德思想が根柢を自由、教育のへられ、この義と結合して等に發育すべりであるが各人の差を生ずる上に欠陥があるといふの思想が發達し、育否定的理由である、佛教の見地からいふやうなされた。日本本

のは宜しくない。中等以上の教育に於ても單なる學問としての教育であつてはならない。單なる知識學問としての教育に止まつた教育の結果現在の學生は知識を綜合して廣く世界を正しく認識することに欠けてゐるのである。自由は進歩的創造的の原理であつて近世に於ける精神文化の發展に貢献した事は蓋し大なるものがあつた。従つて教育上にも貢献したことが多かつた。平等の思想も或る場合には自由主義と一致し以て教育上に影響を與へた。自由も平等もすべての人に教育上の平等陶冶を要求したが、平等は天性の平等に非して教育上の出發點の平等を意味してゐるのである、されば外部の事情による教育の不平等を打破せねばならぬのである。一つの社會に各自協力して一つの社會を構成する所に平等の思想が生れるのである。ここに於て適材適所の現象が起り、こ

最近教育改良運動の動機

東京文政和元年正月

古來郷土を主とした教育はあつたのであるが郷土教育といふ色彩が明瞭に表はれ始めたのは比較的近世の事である。由來教育改良運動の動機になるものは社會に於ける思想上の變革と社會組織の變革の起つた場合であつた。兒童を教育する場合容易なる方法で最も能率を擧げようと努めるのは當然の事であつて、これには手近の所から教授して順次に遠くへ押し及ぼすのが短時間に最も多くの知識を與へる方法である。従つて

り比較する際、直觀的實證的なされ、遠足校外教授等の際に於いてこれらを機会として祖國を知らせる基礎となすのである。

即ち郷土の事物は兒童の體験に基いて知識を得させることが出来るのである。更に進んでは郷土の觀察よ

主義は個人の個性を尊重し各人の優越性を認める故優勝劣敗の事實を許容するが次にのべる平等の原理は自由主義の許容する優勝劣敗の事實を否定するのである平等の原理を奉ずるものは團體の力、國家の力によつてこれが原理の社會現象、學校教育に於て實現されん

国家主義が主力を得て自由主義的功利主義の教育は中央集権的の劃一教育に傾いて行つたのであつた。この中央集権的劃一教育は教育の普及を促したことには効果はあつたのだが餘りに郷土の現實生活とは餘りにもかけはなれた高踏的^{かうとうてき}な教

等兒を救濟する低脳兒教育が起り、他方には優等生を養成する英才教育が起つて来たのである。郷士教育も上述の職業教育、英才教育、低脳兒教育等と連関して述べられるべきものである。郷士教育は地方に於ける郷土材料の陶冶的要素を利用するにあるのであつて、地方

て居らず將來の廣い知識を
與へる基礎とならねばなら
ぬ。ここに郷土愛は生じや
がて延いては祖國愛に迄進
むべきである、固定した窮
屈な人間や偏狹なる思想を
養つてはならぬ。自由に活
動思索する人人を作らなけ
ればならない。(於講習會文
責在筆者)

國の音

世界に君に臨るす旭日の如し

三
千
年
來
の
神
道
を

創造精神を謳歌す

大天壇無國第

メソント講演

神道研究の權威者であり、創造的自由、創造的東洋等の著者として有名である。昭和七年來朝以來神道の研究に没頭されて居るが、總に國民精神文化研究所に於て其の一端を發表されたことがある。左は昭和八年一月二十六日、本校講堂に於ける講演の大要である。

本日此處に御招きを受けたことは私共夫妻の非常に光榮とする所であります然し私はまだ研究中の者であり、且つ日本語に未熟な者でありますから、どうか皆様のやうな學者の前で口頭試問を受ける學生の話として寛大に聞いて戴きたい私は日本の偉大なる文化を特に研究しやうと試みてゐる日本文化に於て最も日本のなるものは神道である凡そ日本文化の種々なる要素中多くは外來のものである。が神道のみは日本固有のものである。即ち神道は日本の國民生活に於て最も代表的な精神なのである。然して神道の核心は創造的活動である、つまり飽くまでもやり遂げることである東洋に於て日本國民は創造的活動をなす唯一の國民である神道は日本の有史以前からあつた。高天原以來事實として嚴存した。それは唯日本に於て眞理なるのみならず宇宙の客觀的眞理である。神道に於ては主觀的精神性が客觀的宇宙へ展開する

非らず、過誤にも非ず、實に主觀から客觀への連續した流である。神話を解して太古の人々の無邪氣なお嘶話とするのは誤りであらう。古事記や日本紀を讀んでつまらぬと考へるのは誤りである。太古の人類に於て發達してゐたものは潛在意識である。そして生命が發達するに隨ひそれが意識に上つて來た。即ち顯在意識になつて來た。此が所謂自覺即ち顯在意識の對象は主として客觀世界である。然し主觀的實在の真相に觸れるものは寧ろ潛在意識であらう。吾々以上に主觀的實在の真相に觸れてゐたと考へられる。太古の人は生命的真相を吾々以上に直觀してゐたのであらう。然し言葉に依る表現は幼稚で且つ不完全であつた。彼等は意識内に潜在する生命的實相を表す極めて想像的な表現を以てした。此處に神話が生まれた。故に神話は一見荒唐不稽であり不可思議である。この表現の稚拙さに妨げられて、神道の中に太古の人々が言ひ表はさんとした眞理があることを氣付かない者が多い。神道の神話は生命的の實相に就いての深い正しい體験を多分に持つものである。神話には二つの研究法が

に於ける最も偉大なる信仰である。此等の意味に於て家は崇神天皇であると思ふ。崇神天皇はその當時から日本文化の特色を研究しよ本建設者と講へられて居る方うとするならば特に諸君がのも尤もな事である。即ちの崇神天皇を研究される事を天皇は國民に創造的活動の薦めたい。何となれば天皇は日本の建設者である。日本紀によると云ふ事を考へた事があるの時代は丁度ジユリヤス、シーザーが羅馬を支配して紀元前一世紀頃に日本を支那から來るからである。諸君は崇神天皇が日本を支配されてゐたと云ふが、其の時代は丁度ジユリヤス、シーザーが羅馬を支配して紀元前一世紀頃に日本を支那から來るからである。諸君の中に任は諸君にある。今迄にしてゐないとすれば其は大きな缺點である。天皇は日本だけでなく世界に於ける偉大なる人格者であつた。何故か。天皇の御代迄は三種の神器が宮中に置かれた。日本の最も古い書物として有名な古語拾遺に依れば崇神天皇と神との間に殆ど區別が無かつた。然るに天皇は神器が常に宮中にあると云ふ事の畏れ多い事を深く感ぜられて之を靈域に遷され皇后をして齊宮にせられ守らしめ給うた。同書によれば宮中で御喜びの歌など作られて居る。その點は日本書紀に於ても古事記に於ても力説されてゐる。これは日本精神の創造的活動がさうさせたと云へるのである。凡そ文化發達の歴史には常に大切な時期がある。其れは二つの中一つを選ばなければならぬ時であるな即ち各個人が力の源泉に。ある。

日本文化の發展史に於ては此の二つの要素が常に平均を取らうとしてゐる。即ちかが勢力を占めると自分が之に挑戦して平均を取る。日本文化の一例は聖德太子の宪法十七條である。聖德太子の憲法十七條を詳しく述べてある。即ち各人の流動を創造的自己運動を當時の豪族の權力から離れて全知全能者に依頼するが之を御移しになつた。天皇は自らの像を造り國民をして神を御崇ひになつた。然るにシーザーは自らを地上の神にした人である。羅馬には御移しになつた。天皇は神器が常に宮中にあるとそれを拜せしめた。羅馬人は自らの像を造り國民をして神を御崇ひになつた。然るにシーザーは自らを地上の神にした人である。羅馬には御移しになつた。天皇は

若し一の文化が滅亡せん場合は何れか方だけ勢力を得て仕舞ふ争ひ相補つてゐるのである。此の二つの要素が互に鬭争に反して生々たる文化又互に補つてこそ人類の生命の進歩發展が有るのである。

日本文化の發展史に於ては此の二つの要素が常に平均を取らうとしてゐる。即ちかが勢力を占めると自分が之に挑戦して平均を取る。日本文化の一例は聖德太子の宪法十七條である。聖德太子の憲法十七條を詳しく述べてある。即ち各人の流動を創造的自己運動を當時の豪族の權力から離れて全知全能者に依頼するが之を御移しになつた。天皇は自らの像を造り國民をして神を御崇ひになつた。然るにシーザーは自らを地上の神にした人である。羅馬には御移しになつた。天皇は神器が常に宮中にあるとそれを拜せしめた。羅馬人は自らの像を造り國民をして神を御崇ひになつた。然るにシーザーは自らを地上の神にした人である。羅馬には御移しになつた。天皇は

國が其の形相に超越せしめられ、天皇を一つを數へる形式の大さくにつたのである。

式を了解し得
特殊のものを造
。此の偉大な
な特徴として
事が出来る。
政治の争い上
た點である。
位が稍々もす
に偏し易い政
遠く高く離れ
點である。第
體の國家統一
中心であるが
中心として多
動の自由の天
點である。
内亂が日本に續
い間日本は完全
に格によるもので
得た。それは高
中心として完全
和が日本に取つ
れた一方には各
たのみならず、
された。即ち不
され。當時
らず庶民も亦そ
はない。此處に
發揮する道が開
和が日本に取つ
たのみならず、
であった。當時
ことは國家の爲
らず庶民も亦そ
はない。此處に
對して一致和合
た。其は三人の
姓の子孫である
ある。織田信
して徳川家康、
人は獨特な互に
出來ると思ふ信
家の系統より出

第ニに即れ、二つは、く地に見られた事は、も極端な形態で、團結一致の發的活動の「團結一致」である。自身で考へるが、これは、二つとも創造的活動を機械にしたくて見た事はない。専ら他端な團結主義である。云ふ機械的行動があつたから、勝つたのは、ヤーには機械精神は新しい。しかし應じて、かつたから、ヤーには機械として斯くの如きの運動があつたのである。新しくして、其の處で得ない。定めたの儘歩むのである。新しい活動の如きは、日本に於ける影響は大きい。日本の居るがそれによつての仕事を成る。日本人は自己表現の創造的精神に「ボルシチ」の如きがある。日本は、居るがそれによつての仕事を成る。日本人は自己表現の創造的精神に「ボルシチ」の如きがある。

傍ら他の活動の「ある事を考へる」のないか。その式は「ボルシチイ」である。それは主義で小數者の活動はつて多數の者を壓迫し、人間を脅迫する。機械は自動的に活動する事は露戦争に日本に創造的活動は日本に反し、「一日の如き作用をなすのである。創造的活動は其の精神は其處に對し、その外にないの困難が突然現れる事は無い。思ふ。日本に於て色を表現する上に最も一つの弱點を得ない。それが餘りに強いエヴィズム」である。日本は兩國の相違で、創造的活動の缺乏である。日本は「ある事を考へる」のないか。その式は「ボルシチイ」である。

的獨裁的に支配すると言ふ
考へが總てではないのである。
人間を單に機械とは見ない
のである。自由意志による
活動を認めるのである。全
知全能者が神道の思想に無
いと云ふ丈で無く神道は元
來民本主義に依つてゐる事
を發見するのである。日本
の太古の人々は「デモクラ
シー」の信者であつた事に
疑は無いのである。
若し諸君が日本の神話を
充分に研究するならば日本
人の活動は創造的民本的で
ある事に氣がつくであらう
常に又絶えず神道に於ては
自分自身を信する事が存在
する。神を崇拜されたことは、天
賴して仕舞ふかと云ふ事で
ある。當時疫病が流行し、
天皇は大いに御心配あらせ
られた。蓋し國民が餘りに
宮中に依頼し過ぎて自力で
其を癒さうと努めなかつた
からである。神器をお遷し
になつた一面の理由は、此
所にもあつたのである。天
皇は又造船業に力を盡され
教育の普及にも納稅にも中
央集權的な事にも意を用ひ
遊ばされた。其處に神道家
としての創造的御活動の事
實が認められる。天皇自ら
神を崇拜されたことは、天

が、どうか天皇の如き獨創的活動を持たれる方のあつたことを記憶して戴きたい。羅侯の同時代には文明は非常進んだ物であつた、が羅侯が文明以上のあの崇神天皇創造的活動力を有つてゐられた事を記憶して戴きた。

日本歴史に常に現はれ、創造的活動力は何時も不甲斐無く議なる方法で現はれて居る。此の創造的活動は一見全然反対の方向にある様に思はれる。一は個人的に現はれる一面で、今一は非個人的である。全體が一緒になって創造的活動を現すと云ふ一面である。凡そ創造的

たのであるとき壓制が現に馬馬のその大勢力で政治を行ふに藤原氏一である。斯く舞は他の國を妨げ、又現はれる創思いだのである反抗の中然た偉大なるた人が現れ朝である。如何極地に於て極ふも爲し得な

。然るに又新
れてゐる。宮
族が勢力を得
をたのんで一
つて行つたの
の如き事横な
民の天才の發
常に日本歴史
的活動力を
常に對
する。其れに對
から日本の優
秀な人材を
支配形式を始
めた。其れは源
その名は鎌倉
めて神聖な名
なる他の政治
かつた新しい
明した。日本

康は源氏から本來貴族を
持つものとし
により日本で
し得た事を
果として徳
まつた。
調和統一
和結合が
個人主義が
い。
其の結果
動の自由な
れた。其の
に加ふるに
して、即ち
あつて個人的
しい日本が
代に諸君は
ある。

り將軍たるの家である。此の三は政治的結合を知るのである。川の將軍政治が成つた。然して端になると反対擡頭せざるを得る新しき日本が個人的創造的立憲的のものとして天皇中心主義が生まれた。此の主義である處の生まれたのである。

意識的で自覺的である。自己表現のことは現代に於けることは現実である、即ち危険である。國民に説明し易い事が出来ない。表現に長じてゐるに反して内面活動は結構である。身價値がある。身價値がある。訓練は人を發揮する手段である。直觀的訓練が日本に於ける事実であるかが問題である。日本人は

女教師二十景

家婦庭人欄

第三景

入學試験の由(三)

景一　　査場はシンとしてゐた。裏庭に面した窓から射し込む陽の光は、さすがに春分に近き頃とて、和やかに輝かしく、室の一隅のストーブにかけられた湯わかしの音ものどかに、窓外の彼岸櫻は、蕾やゝに解けて、春は〇高女に既に十分である世話好きのC先生が心づくしのコ一ヒーを喫みながら（今日は、此室には、給仕をも出入せしめない）煦々たる春光の抱懐裏に在つたT子は、ふと、一鳥啼かざる深山の如き寂靜の現實が、外の騒蕩と相容れないのに気がつくと同時に、忽ち階上の試験場や、階下の父兄附添人控へ室が氣になり出したが、當面に答案考査について、改めて審議會を開く大事を控へてゐたので、すぐに氣をかへ、他の國語の先生方と椅子を並べ、額讀書を鳩めた。「作文」は？「講讀」は？四人は、それ／＼意見を吐露し、結局水も洩らさぬ周到な方法を決定したのである。

かくて、完全に一時間は過ぎた。

第一校時終了の鈴……

全校が一時にホツと吐息をしたやうに思はれた。

二階は人音が可なり激しい今まで静まりかへつてゐた教室において隣の數學答案考査場に、試験場がゝりが

答案の個線をしたのを持つて來たらしく、やざわめくのをT子は聞いた。
「生徒の注意が統一されませんから、己むを得ざる外、父兄・附添人は、控へ室から出ないやうにして下さい」
と掲示された大講堂に入つてゐる父兄や、小學校の先生方の胸中を察して、T子は氣もそぞろに立ち上つて見たものゝ、結局どうすることも出来ないので、心を静めて復席した。十分の休息の後、第二校時は始まつたのである。
学校全體が又息づまるやうな沈黙！
試験場の生徒を思ひやつてスッカリ緊張して了つたT子は、第二校時終了の鈴を聞いた時は、先刻よりモツト大きくなつとした。
やがて、試験場がよりの先生が、各々受持つた受験生の數だけの國語の答案を、試験場に運んで來た。
八つに分けられた七百有餘枚の作文が、机の上に順々に積まれて行く。
試験場がよりの先生は、入つて來た時と同じやうに、又黙つて考查場を出て行つた。
作文は、各自二冊づゝを調査し、自由に採點し、後これを交換して、前者には拘泥せず、後者も亦自由に採點し、尙ほ調査主任の先生が、今一度見ることに決議されてゐるので、T子は、最初に受取つた番號「から今までと、番號151から214までとの二冊を前にして

て一心不亂に朱筆を動かしてゐたのである。
「アツハツハツハ」
突然、A先生の磊落の笑聲に、T子は元よりN先生もO先生も、其の方を向かすにはあらねなかつた。
「もう無いだらうと思つたところ、やつぱり一瓢を携へて花見に行くのがありますよ」と云つた先生は、「困つたな、文章は、全く悪くないのだが、かう虚偽を並べたのでは點のつけやうがない……宜しく、諸君の再調査を請ふことにして……」
と、其の番號³³を、深く折つて次へ移つた。T子は、又一生懸命に「春の樂」の上に點をつけて行つた。
一冊目のには、さのみ傑作もなかつた代り、又非常な悪文も見出せなかつたが、二冊目は、最初から名文に接するを得て、T子は我事のやうに喜んでゐたところ次第に進んで、番號¹⁷⁴に來た時、朱筆を持つたまゝ唶然として了つた。
春のたのしみや朝湯にかかる
いの一番の衣裳棚
春のたのしみや花見で御座る
二人そろうて向島
と、都々逸やうの二首が認めてあるのにも、正にぶつかつたからであつた。
「如何いたしませうね」
T子は「一番にはかわいさうと思つたが、他の國語の

○先生は「四番を辯護する
「僕がね、以前E高女に
ゐた時だ、やつぱり入學
試験の作文に「遠足」を
出したところ、どこをど
う取り違へたものか「猿
の足」と思ひ込んで了つ
た生徒があつてね「猿の
足は人間より短く、毛がど
三本不足してゐて」と云
ふやうな書き出しで、と
てもグロ作文をやつての
けたものがあつたがね
……ウム君、無論ゼロに
は違ひなかつたが、全く
奇想天外どころの沙汰で
なくて、ほんとうに笑ふ
ことも出来なかつたよ
子供には、時々大人には
思ひ及ばない面白いこと
を考へてるのがあるから
其の「四番さんは、あと
で數學の方をのぞいて來
て、あたまに異常がある
のか、それとも、別に散
文とも韻文とも説明して
無いのだから、都々逸も
一種の韻文だからいゝと
思つて作つたのか、どう
か調べませう」
とN先生は裁決した。
そこで四人は、又沈黙して
筆を動かし始めた。
T子も「四番を、丁寧に折
つて、次へへへと採點して
行つたのである。
一同が、相前後して、第一
次の調査をしめきつた時、
受験生達は、もう休憩室で
午餐後の少時を休んでゐる
らしかつた。
午後は、今一回數學の…
最後の時間は國語講讀の試
験である。

正面からすゝめ、二、三膝（立禮の場合は二、三歩）退いて、丁寧に一禮する（但し、客に刀身を見せんと欲する時は、少し鯉口をくつろげて捧げる。）
B 受け方
主人、刀剣を我が前に捧げ至つた時は、客も二、三膝（立禮ならば二、三歩）進み出で立つて茶の用意をして、「さあとにかく晝御飯にいたしませう」
と、他の三人にすゝめるのであつた。
「では、さうしませう、お互に丁寧に調査するのですから、今日はトップでリ暮れて了ふつもりでありますから、なればならない——飯だけでもゆつくり食べさせよう」と云ふ先生の言に、各々答案を、大事に他の机の上に載せて、静に持參の辨當について

にすべきである。
鯉口をくつろげてない時、刀
身を拜見しようとするには、刀
主人の許可を受けてからでな
くてはいけない。
刀身を拜見するには、紺綬で
欄を持ち、鯉口をくつろげて
から、静かに抜くのである。
其の方法は、右手に柄を、左
手に鞘を持ち、刃部を上にし
て立正坐り、刀身を正面に見
たまふ。刀身を正面に見ると、
刀身を開くのだった。
「どこからか鶯の聲が聞えて
窓外はるかに浮ぶ片雲は無
心……」
「淺川先生の御嬢さん、
中村先生の姪御さん、
常盤先生の従妹さん、ど
んなたも優れた成績と伺の
てゐる。同じくは入學を
せて上げたい」
と考へたT子は、
「より正しく、より嚴か
に」
の、今朝の校長の言を思ひ
出して、答案に生徒の姓名
の無かつたことを、どんな方
に祝福したか知れなかつた
旨に詮議の書翰に

刀剣を携へて人の室に入るに
は、それを右手に持ち、刃の方
を下に向けて通るのを禮とし
てゐた。畢竟左手にこれを持
極めて細心の注意を拂つて來
てゐる、現代といへども、こ
れを苟くもしてはいけない。

此の内妙觀院様御繁昌の節私へ下され候地藏様の紙一包參らせ候。御と
じ様へなもじながら上はさせられ下さるべく候。
九重の御守り懷中の鏡は
朝夕御前様へ出で候度にて、私貌をうつし候を
差上げ候。必ず／＼御數
きの種と思し召し下され
まじく候。三五郎方へは
殿様より戴き候御香合、奥
鼻紙ぶくろ遣はし申候。
お宮へは、これも殿様より
いたゞき候御繪と、奥
様よりいたゞき候かんざ
し、子安遣はされ候を
ば様はじめ、仁右衛門様
半平様、百代どのなど、
其外、皆々様へ暇乞仰候
下さるべく候、小田原の
伯父様へも御忌かゝり候
はんと、定めて仰せつか
はされ候と存じ參らせ候
其の折から、妙くわんさ
まへ、此觀音様つかは
れ下さるべく候。御伯父
様へもよろしき旨何なり
とも、少しづゝ御上げ
さるべく候。本庄の乳母
へも、此金袋封のまゝ
てつかはされ下さるべ
候。私より、前よりい
ほしがりくれ候まゝ、お
かづき候ものにてもつか
はし度く存じ候へども、
俄のことゆゑさつへ計り
つかはし參らせ候。是

御暇乞はかりと申し残り遊ばし候はんと存じてげ参らせ候へども、何事も定まる業因と思し召し御事だにも、今日にせり泪に目もくれ、後先もしどろに見えわかず候まゝ、早々申上げ参らぬ候。

御かもじ様
藤の花ながき久しき
世の中に
ちりゆくけふぞ
思ひ知らるゝ
みち より

聽衆は、T先生の朗々たる誦讀に、次第に引かれて乞くのだつた。
朗誦終つたT先生は、面を上げて一同を見た。
「皆さまは、もはや御存じのことゝ存じますが、これこそ、有名な鏡山のヒュイイン^{ひい}のほね女主人公尾上局の遺書で御座います。お芝居でありますと、あの御殿の長廊下を、鳥啼^{うき}きを氣にしながら、振りかへり／＼使って行く、忠婢^{ちゆうひ}おはのがれだつたので御座ります。本當は、さつで御座いますが……」の手にしてある文箱の中の手紙の内容がこれだつたので御座ります。

知識交換

或る座談會

K
記

るげでない時、刀を受けてからでない。ようとするには、紛で離口をくつろげて抜くのである。右手に柄を、左右、刃部を上にしつた。鶯の聲が聞えて、生の御嬢さん、に浮ぶ片雲は無の姪御さん、どの従妹さん、どれた成績と同様、同じくは入學したい」子は、しく、より嚴かに記載した。

刀剣を携へて人の室に入るに
は、それを右手に持ち、刃の方
を下に向けて通るのを禮とし
てゐた。畢竟左手にこれを持
極めて細心の注意を拂つて來
てゐる、現代といへども、こ
れを苟くもしてはいけない。

此の内妙觀院様御繁昌の節私へ下され候地藏様の紙一包參らせ候。御と
じ様へなもじながら上はさせられ下さるべく候。
九重の御守り懷中の鏡は
朝夕御前様へ出で候度にて、私貌をうつし候を
差上げ候。必ず／＼御數
きの種と思し召し下され
まじく候。三五郎方へは
殿様より戴き候御香合、奥
鼻紙ぶくろ遣はし申候。
お宮へは、これも殿様より
いたゞき候御繪と、奥
様よりいたゞき候かんざ
し、子安遣はされ候を
ば様はじめ、仁右衛門様
半平様、百代どのなど、
其外、皆々様へ暇乞仰候
下さるべく候、小田原の
伯父様へも御忌かゝり候
はんと、定めて仰せつか
はされ候と存じ參らせ候
其の折から、妙くわんさ
まへ、此觀音様つかは
れ下さるべく候。御伯父
様へもよろしき旨何なり
とも、少しづゝ御上げ
さるべく候。本庄の乳母
へも、此金袋封のまゝ
てつかはされ下さるべ
候。私より、前よりい
ほしがりくれ候まゝ、お
かづき候ものにてもつか
はし度く存じ候へども、
俄のことゆゑさつへ計り
つかはし參らせ候。是

御暇乞はかりと申し残り遊ばし候はんと存じてげ参らせ候へども、何事も定まる業因と思し召し御事だにも、今日にせり泪に目もくれ、後先もしどろに見えわかず候まゝ、早々申上げ参らぬ候。

御かもじ様
藤の花ながき久しき
世の中に
ちりゆくけふぞ
思ひ知らるゝ
みち より

聽衆は、T先生の朗々たる誦讀に、次第に引かれて乞くのだつた。
朗誦終つたT先生は、面を上げて一同を見た。
「皆さまは、もはや御存じのことゝ存じますが、これこそ、有名な鏡山のヒュイイン^{ひい}のほね女主人公尾上局の遺書で御座います。お芝居でありますと、あの御殿の長廊下を、鳥啼^{うき}きを氣にしながら、振りかへり／＼使って行く、忠婢^{ちゆうひ}おはのがれだつたので御座ります。本當は、さつで御座いますが……」の手にしてある文箱の中の手紙の内容がこれだつたので御座ります。

大正三年第四回の卒業である、學窓を出ると直ちに自家経営に従事し、農村振興に志した、同村は之より先明治四十二年産業組合の設立を見たので有名無實の感があつたのである。

中郡高部屋村
之が改善に留意し自ら事務を分擔して組合精神の徹底と金の奨励、農産物の販賣に主力を注いだ。かくて大正十四年十二年産業組合の設立を見たのである。

中郡高部屋村
小澤光男氏
之が改善に留意し自ら事務を分擔して組合精神の徹底と金の奨励、農産物の販賣に主力を注いだ。かくて大正十四年十二年産業組合の設立を見たのである。

(3) 産業組合の改善と農乳販路の開拓

小澤光男氏



縣立農業學校第一回卒業、明治四十年農學を卒へるや改善を研究しその地方密柑栽培に寄與する所は甚大である

坂頂迄も開墾せられ密柑作付二五六町歩年算十五萬圓を下さる收入をあげてゐる。

(4) 相原農藝學校推薦

山下茂市氏

小佛峠の南、中央線與瀬驛

津久井郡牧野村

全く疲弊の極に陥つた。氏は

運命にある牧野村に踏止つて

興村の理想實現に邁進した。

同村は天與の生産力に恵まれ

れば裏もある世間のなは

すとして、假令失敬する事

があつたとしてもどこかに

が利用する事は請合ひ

の言は謂いたくも聽きたく

の保険つき、時間と仕事は

ねばならぬので之が指導を勵

結構、葉書大の短文も可な

自他共に敬んで尊重する。

ある。

（編輯坊主）

の基礎を益々固きに置きそ

の後配給肥料の普及、日用雜貨

である。

（編輯坊主）

の開發する所多大である。

農業知識を進める等地方農村

りである、今すぐ載せるか

は模範的で、これらはいづれ

も氏の獻身的努力に負ふもの

である。

（編輯坊主）

載せないかは編輯坊主に有

（編輯坊主）

四 波浮港 元村 岡田出帆 平一壽生 船中一泊 大島旅行記

間伏しから波浮港までボルト自動車にゆられる、然し運ちやんの腕は妻い屈曲、スロープも物かは、走る。二十分にして波浮に着く、途中椿の赤く咲いた並木、大きくゆうぜつらんが石築の上に育つ。一月と言ふにそら豆が花を開かせてゐる見る草本總が春だ。南海の氣分が濃かに描出されてゐる。蔬菜、花栽培の好適地とならないかしら。氣温、雨量、東京への時間的距離、大島は自然の雄大に抱擁されてゐる。偏心された人間を伸び得る人に対するみ力を否定する事は出来ぬ事であらう。

こんな感想を追つてゐる中に民謡に名高い波浮港に下りる。決して再び来る處ではない。

波浮の港は夕やけ小やけあすの日和もヤレホンニサ風るやら」

は美化され、宣傳された波浮では無からうか。然し夏の清遊はいざ知らず。

の宣傳に高い波浮をカメラにて、十一時に再び自

日本聯合女子青年團は、その前に大日本聯合婦人會

日本聯合女子會館 建設醵金 本縣の成績 著々進む

田樂と豆の花 白幡一燈

田樂や泊まる信濃の片田舎田樂の串までこげし強火かな田樂やふうく味噌のあたたかき田樂の飴えに味なし茶碗酒田樂の味噌の香けむる遠火かな

納屋こぼれに袋編む人や豆の花 日表に袋編む人や豆の花 肥桶に入れば指す裏豆の花 野井汲む人や豆の花

日本聯合女子青年團は、その前に大日本聯合婦人會

大

日本聯合女子會館 建設醵金 本縣の成績 著々進む

日本聯合女子青年團は、その前に大日本聯合婦人會

大